

飯田地区 カルテ

データについて

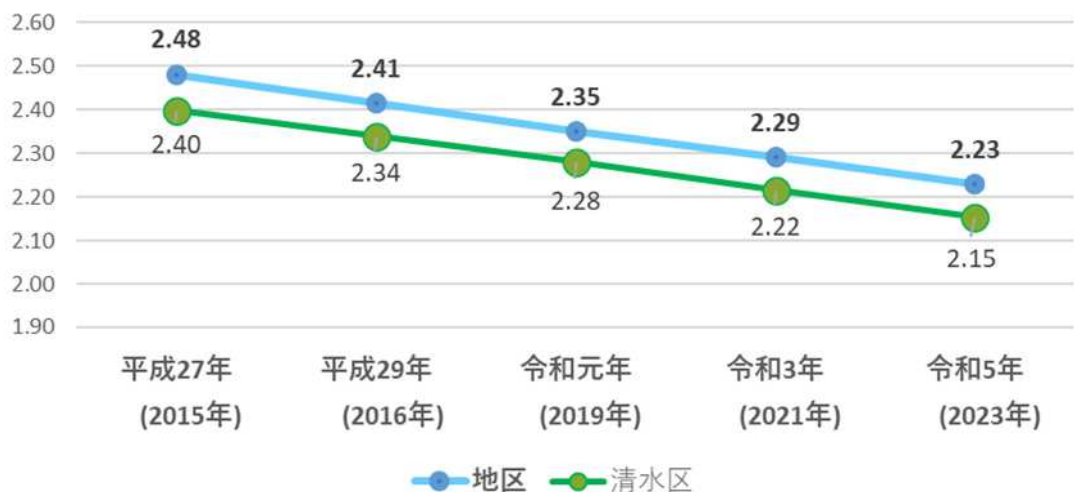
- ・カルテは住民基本台帳と自治会加入統計を利用しています。
- ・住民基本台帳は各年の3月31日の数値、自治会加入数は各年の4月1日の数値です。
- ・町名は住民基本台帳を採用しているため、自治会名と一部異なる場合があります。

飯田地区の人口特性 令和5年3月 25,526人 11,447世帯 2.23人/世帯

●人口・世帯数の推移



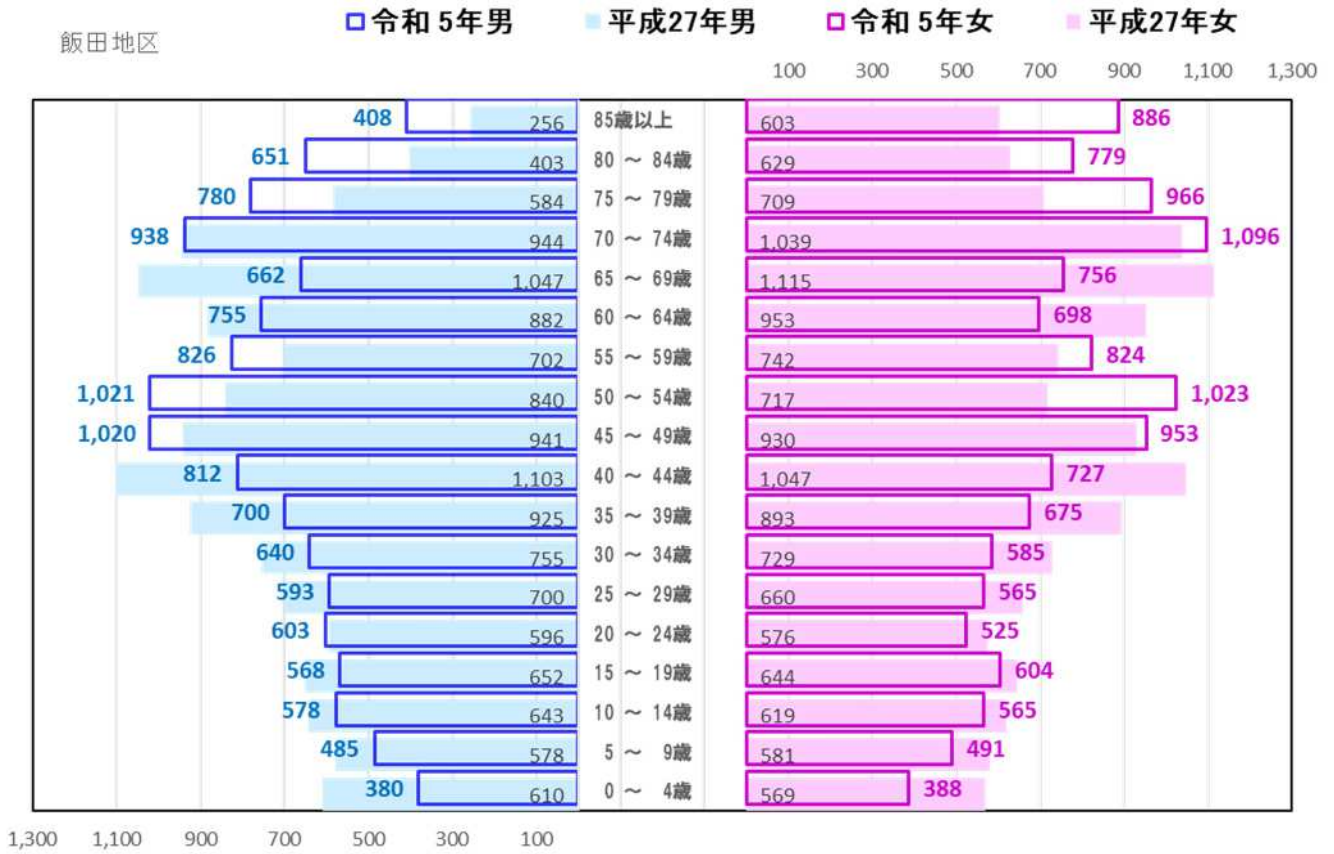
●一世帯当たりの人口推移



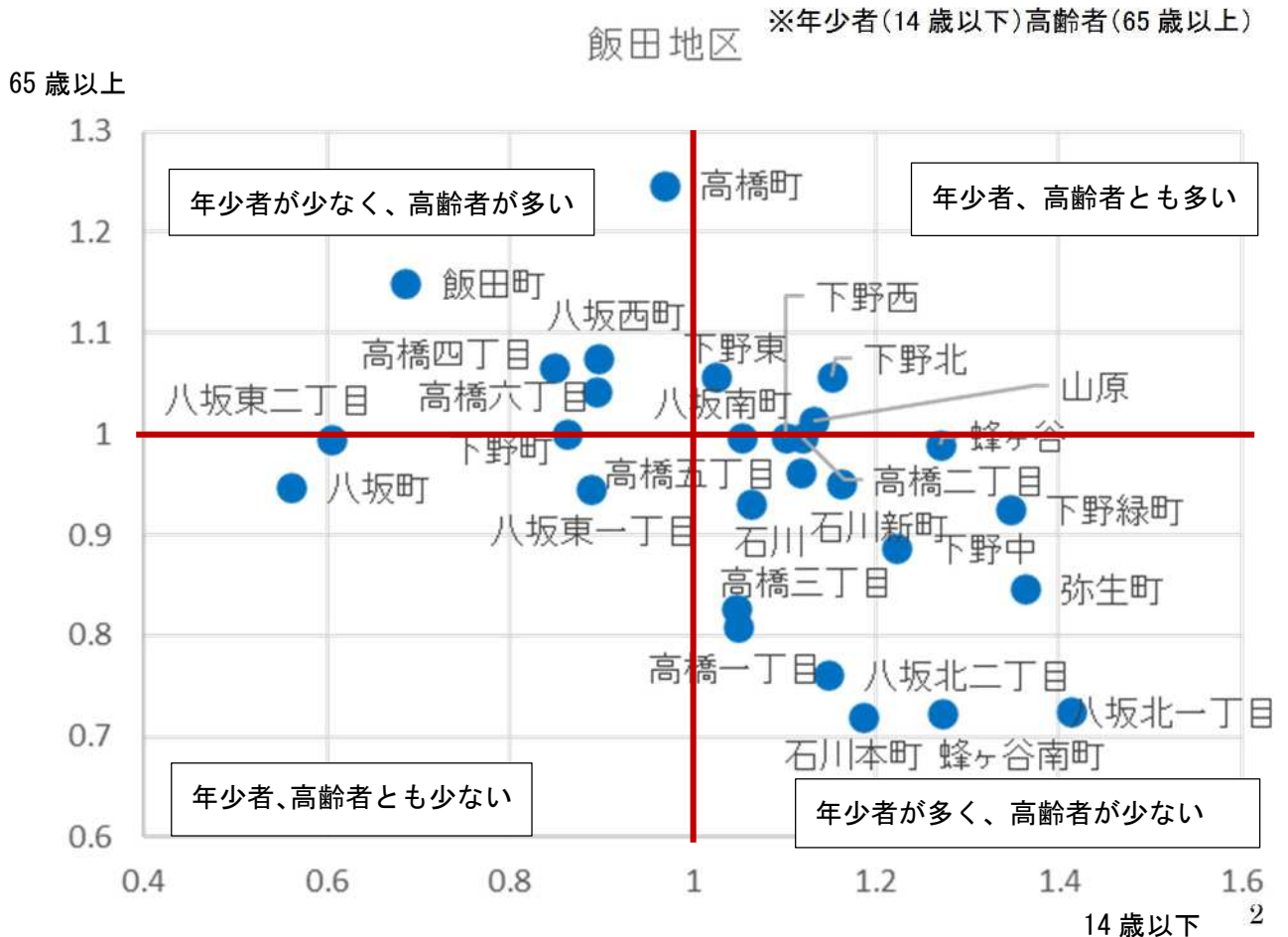
●65歳以上の高齢者を支える生産年齢層 (15-64歳)

区分	平成27年 (2015年)	令和5年 (2023年)
地区	 2.18人	 1.86人
静岡市	2.16人	1.88人
清水区	1.98人	1.71人

●人口ピラミッド【平成27年(2015年)と令和5年(2023年)の5歳階級別男女別構成】



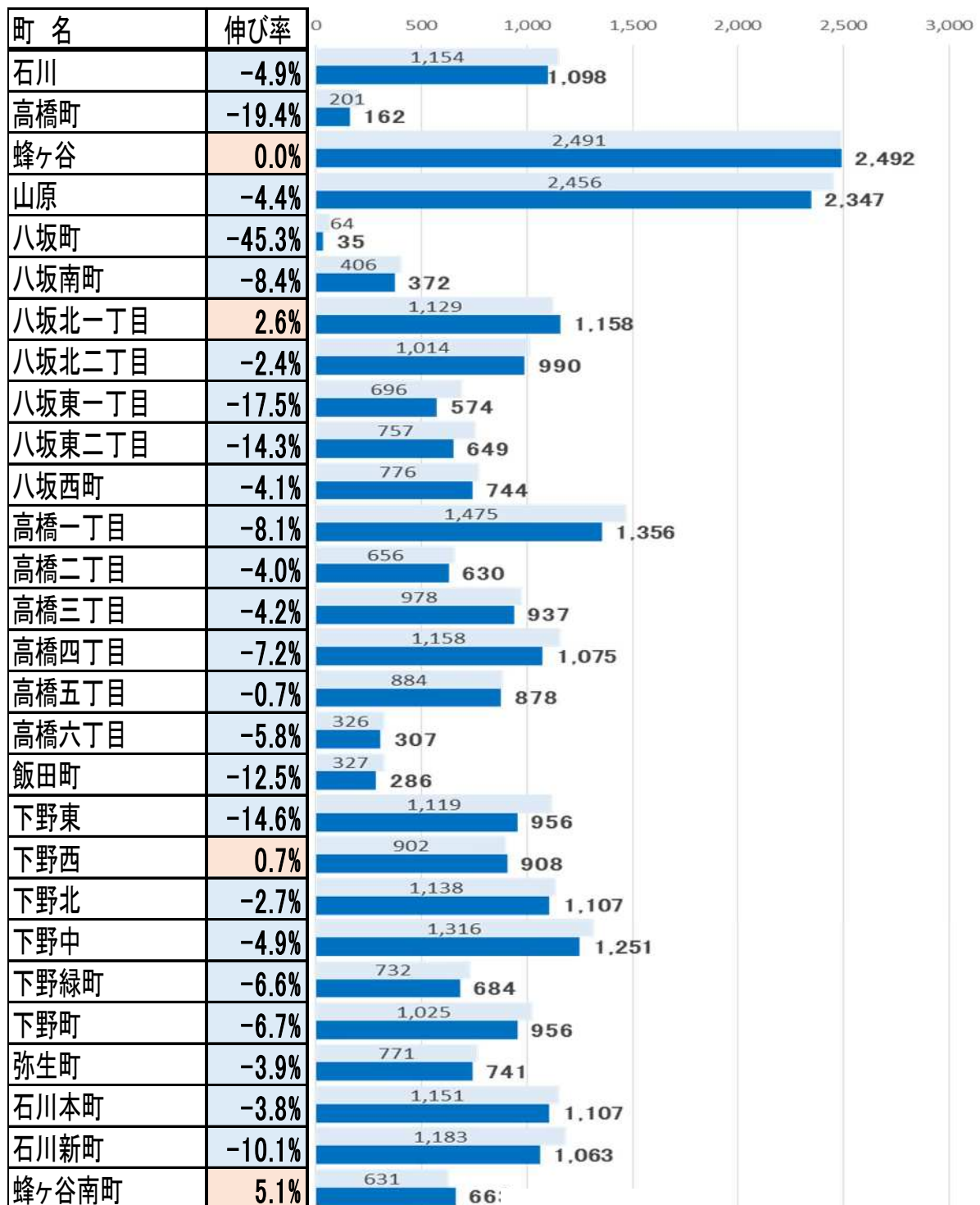
●町別の14歳以下と65歳以上の割合分布(清水区の平均値を1とした場合)



●町別の伸び率と人口推移

【平成 27 年（2015 年）と令和 5 年（2023 年）の比較】

人口推移グラフ（上段平成 27 年 下段令和 5 年）

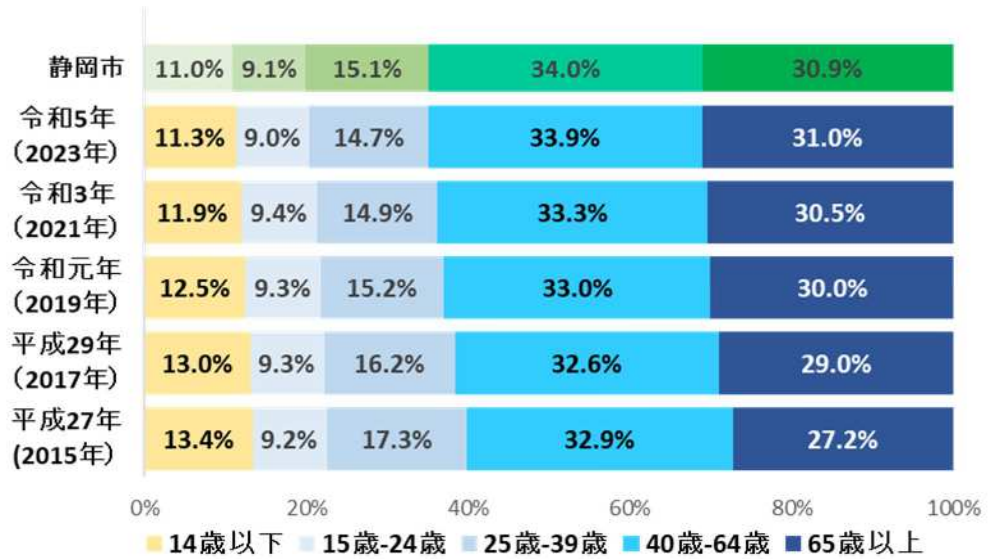


		人 口	
		平成 27 年 (2015 年)	令和 5 年 (2023 年)
飯田地区	-5.2%	26,916	25,526
静岡市	-4.6%	713,564	680,913

注)「下野」は秘匿事項で人口等は、「下野北」に含まれています。

●町別人口区分別割合

・年齢5区分別人口割合の推移



※15-24歳は高校から社会人(大学修士課程含む) 25-39歳は社会人(大学博士課程含む)

・令和5年人口3区分別：

市の割合より

青字 14歳以下の割合が低い場合

赤字 65歳以上、75歳以上の割合が高い場合

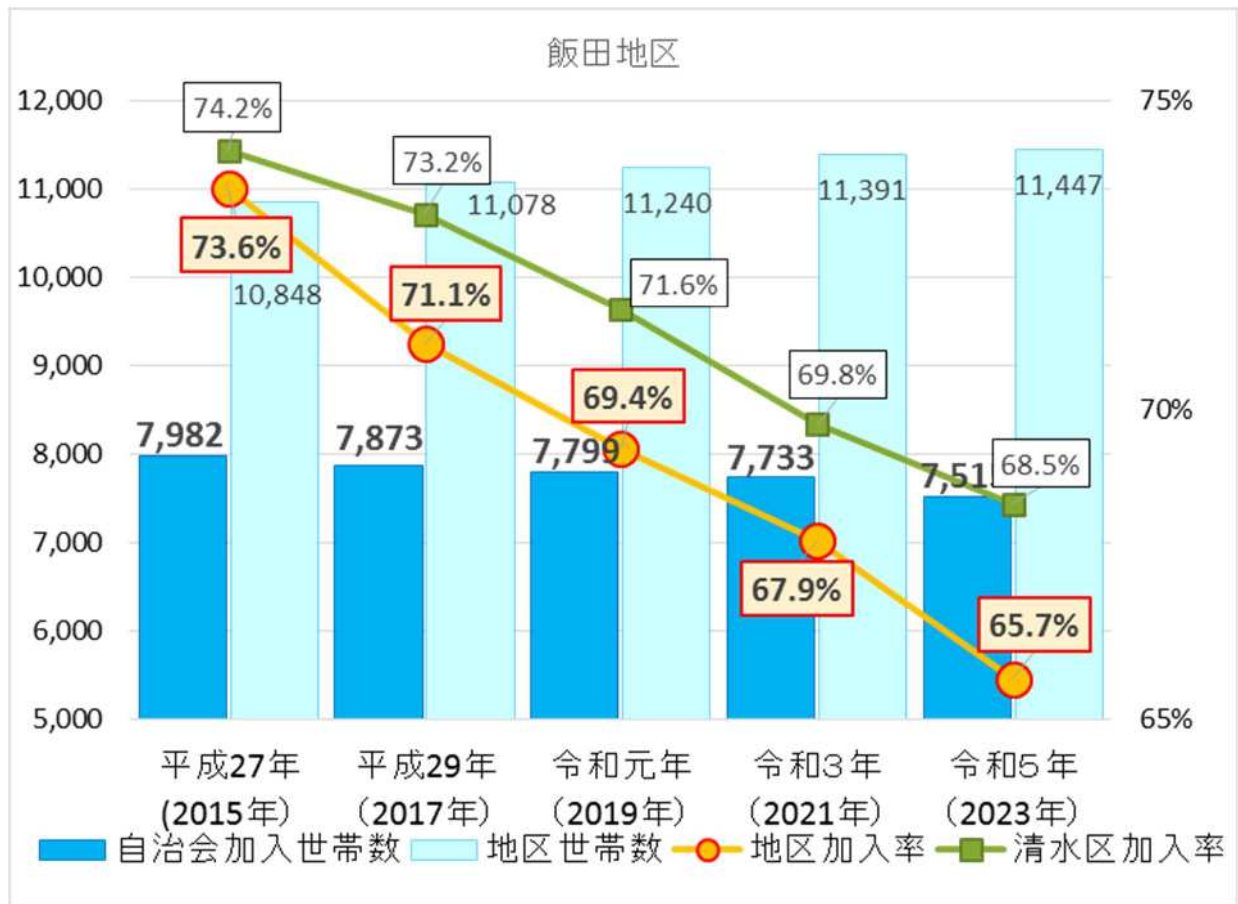
町名	令和5年階級別割合		
	14歳以下	65歳以上	そのうち75歳以上
石川	10.8%	30.9%	18.3%
高橋町	9.9%	41.4%	22.8%
蜂ヶ谷	13.0%	32.8%	17.9%
山原	11.5%	33.6%	19.5%
八坂町	5.7%	31.4%	17.1%
八坂南町	10.8%	33.1%	20.2%
八坂北一丁目	14.4%	24.0%	12.2%
八坂北二丁目	11.7%	25.3%	11.5%
八坂東一丁目	9.1%	31.4%	16.9%
八坂東二丁目	6.2%	33.0%	19.0%
八坂西町	9.1%	35.6%	19.6%
高橋一丁目	10.7%	26.8%	15.1%
高橋二丁目	11.4%	33.0%	19.0%
高橋三丁目	10.7%	27.4%	15.4%
高橋四丁目	8.7%	35.3%	21.7%
高橋五丁目	11.4%	31.9%	19.2%
高橋六丁目	9.1%	34.5%	19.2%
飯田町	7.0%	38.1%	23.1%
下野東	10.5%	35.0%	18.8%
下野西	11.2%	33.0%	18.0%
下野北(下野舎)	11.7%	35.0%	22.1%
下野中	12.5%	29.4%	17.4%
下野緑町	13.7%	30.7%	18.4%
下野町	8.8%	33.2%	17.3%
弥生町	13.9%	28.1%	14.0%
石川本町	12.1%	23.8%	12.2%
石川新町	11.9%	31.5%	19.1%
蜂ヶ谷南町	13.0%	24.0%	13.7%
飯田地区	11.3%	31.0%	17.5%
清水区	10.2%	33.2%	18.7%
静岡市	11.0%	30.9%	17.2%

注)「下野」は秘匿事項で人口等は、「下野北」に含まれています。

●自治会加入状況

令和5年

加入率	地区	65.7%	加入世帯数	7,515世帯
	清水区	68.5%	住民基本台帳世帯数	11,447世帯



飯田地区コメント

- ・人口は減少傾向を示し、世帯数は増加傾向にあります。世帯人数も減少していることから、単身世帯や小家族化が進んでいるようです。
- ・人口の減少地区がほとんどですが、微増している地区(蜂ヶ谷、八坂北1丁目、下野西、蜂ヶ谷南町)も見られます。
- ・2年後には、団塊世代が75歳以上となり、生産年齢(14歳から65歳)が65歳以上を支える人数が2をさらに下回り、若い世代が地区や自治会活動等への負担が増えることが見込まれます。
- ・自治会の加入率が市の値69%より低く、40歳から64歳の自治会活動等で中心的に活躍を期待される層の減少が見られます。

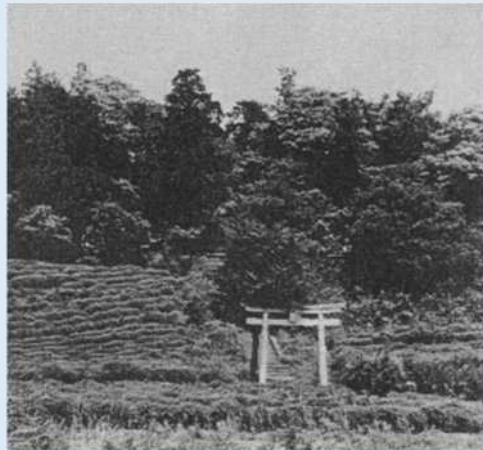
飯田地区

地名のゆかり

廬原国が盛んだったころは、旅の交通路がこの地区内を通ったと推定されていますので、奈良朝以前から開けていたことと思われます。

平安時代の中期以後、入江に本拠を置く入江一族が栄え、入江庄は、一時薩埵峠山から安倍川まで広がりました。巴川の沼沢地だった飯田や高部もそのころ開拓されたようです。この入江一族から独立して、飯田の森（八坂町付近）辺りに館を構え、高部庄飯田郷を支配したのが飯田一族で、吉川小次郎などと共に梶原景時とその郎党を討った飯田四郎、五郎の名が記録に残されています。今に残る殿屋敷などの字名は、この飯田一族につながるものでしょう。

このように、「飯田」はかつて入江一族の郷の名称だったのですが、明治22年、高橋、山原、下野、蜂ヶ谷、石川の各村が合併したとき、新しい村名として復活しました。



飯田館があったと言われる八坂神社

山原堤風景昨今

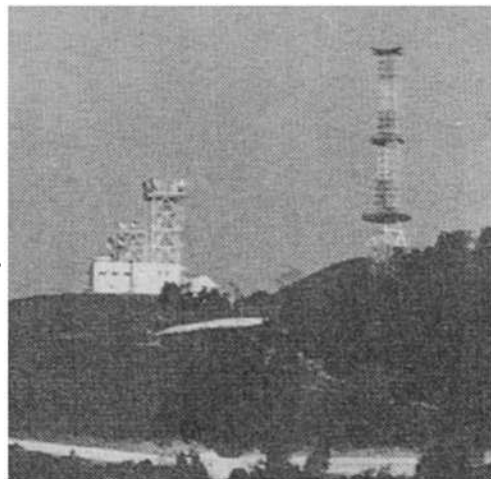
山原堤を上流に向かい小壯の滝分岐を直進します。昭和50年代には山原の自然が広がっており山野草の宝庫と云っても良い所でした。キブシ、カマツカ、ダンコウバイ、アブラチャンなどの落葉樹のほかシャガ、破れ傘、山吹草、藪ミョウガ、宝積草、蛍袋などの山草が数多くありました。今はミカン農家の減少とともに農道や山道も荒れ、人の行き来が少なくなり貴重な山野草が少なくなりました。

平成の今、山原山を起点とし、山原川上流から山原堤そして山原川流域に自然を取り戻そうという活動を行っていますが、一度荒れた自然を取り戻すことは非常に難しく、下流では一部ですが、小壯の滝遊歩散歩道として、また上流域では夏になると蛍が飛び交うなど少しずつではありますが回復の兆しが見えてきました。

山原中継所と通勤用ロープウェイ

山原川上流域を小壯の滝方面に右折し、小壯の滝で岩盤より湧き出す水源で水を補給し更に上流を目指す。滝より3キロほどで以前はミカン畑と思われる地点に到着します。昭和60年ぐらいまではその地点から山原中継所を目指す山道がありましたが、今は廃道となっています。

また、滝への分岐を右折せず直進すると旧炭焼き小屋があります。この小屋近くに昭和57年ぐらいまで山原中継所への通勤用ロープウェイがありました。山原中継所は昭和28年、テレビ時代を迎え極超短波無線中継所が山原山の頂上に建設されたもので、このときの建築資材をこのロープウェイから運びあげ、当時の江尻電信電話中継所の職員が通勤用に用いた交通機関でありました。現在、この山原中継所への登山道は山原広域農道と庵原・伊佐布からの広域農道、そして梅ヶ谷峠からの山道があります。



山原中継所

高源寺

創建は延文元年（1356）鎌倉円覚寺の仏満禅師を請じて開山し、高橋城城主某が祖父の高橋孫太郎維行衛門尉従五位下のために、この寺を建てたと言われています。

境内に梶原平三景時一族の供養碑があり、銅板で景時を浮彫にしたものがあります。そして本堂は久能寺妙楽院を明治の初め巴川で運んで移築したもので、静岡市の文化財に指定されています。また明治22年の飯田村誕生に功績のあった山梨豊太郎の碑もあります。



高源寺

高橋神明宮

創建の年代は確かなことはわかりませんが、かなり古いといわれています。本殿の神明造りは立派なもので、拝殿とともに昭和43年に改築されました。合祀されている白髭神社は明治の初めまでは高橋新田字宮ノ前にあり、飯田の森と言われたこともありました。

豪族飯田五郎家義の氏神といわれています。

天王社は天王原にありましたが、水害のため高源寺に永くありました。大正・昭和の初めは高源寺で天王社奉納角力(すもう)を行ったようです。

櫻木神社は神明宮にありましたが、大正初め天王原自治会が出来たために移されました。



高橋神明宮

「和物所（あいなんじょ）稲荷」

「和物所稲荷」は、お菊稲荷、一本木の五郎蔵稲荷、夫婦稲荷とも呼ばれています。

昔、お菊という女が和物(あえもの)を売って生活の糧としていました。

ある時、お菊が旅侍に切られて死んでしまいました。

その後から旅人の災難が続きました。

それを見た地元の人たちがお菊の霊を稲荷社として祀ったと伝えられています。

それからというもの、旅人の災難はなくなりました。

瘡(おこり)の病いと失せ物に効果がある稲荷さんで、願をかける時、和物を上げるのが風習のようです。

